

### 神戸商店グループ

# 未利用廃油の開拓へ

## 燃料向け再生など模索

廃食用油の再資源化に取り組む神戸商店グループ(東京・葛飾、神戸純社長、☎03・3627・7879)は、新たな未利用資源の開拓を目的に、脂肪酸や飼料用に向かない廃食用油のリサイクル手法を模索している。廃液などが混入して有効利用が難しい廃食用油を活用するため、技術開発などへの協力体制を構築する。

グループは、収集運搬サービスを行う神戸商店と、マニフェスト管理や請求作業、回収業者のネットワーク構築など管理業務を行うジェー・キュリアスで構成される。外食・コンビニチェーンや駅ビルなど、食品関連事業者で発生する廃食用油のリサイクルをジェー・キュリアスが全国一元管理。同社を通じて、神戸

商店をはじめとする指定業者が地域ごとに回収業務を行い再生工場へ運搬、せっけんや飼料の原料として再資源化する。回収コストの低減や、顧客サービスの観点から、同業者との連携に力を入れている。今年度から全国油脂事業共同組合連合会の副理事長に就任。また、都内の一部自治体で実施している家庭系廃食用油の回収業務は、神戸商店が理事長を務める関東リサイクル油脂事業協同組合を窓口として負っており、組合としてバイオディーゼル燃料(BDF)などで注目される地域バイオマス資源の掘り起こしも視野に入れる。

グループは事業を行う上で、地域との共生を重視し、葛飾区の小中学校に朝顔セットと廃食用油から再生したせっけんの寄贈などの活動を行い、2007年3月には、区

から感謝状を受けた。廃食用油は昨今、BDF原料として注目を浴び、燃料としての需要が伸びている傾向にある。神戸社長は「BDF化も有効な利用法として認識しているが、廃食用油は飼料

自給率向上のためにも貴重な資源」とし、廃液などが混入して資源として有効利用されていない廃食用油を、燃料向けに再生できる技術の模索などを検討している。

### 外来魚480tを飼料化

淡海再資源化協同組合

賛助会員との連携処理へ

淡海再資源化協同組合(滋賀県大津市、竹ノ内理事長、☎077・549・3356)は、琵琶湖から水揚げされた外来魚を飼料化、本稼働から約1年で稼働率がほぼ100%に達した。06年度処理実績は480ト。今年度は賛助会員である日野ドリームファームと協力し、年間550トの処理を目指す。

飼料化施設は、ドラム型乾燥機、排水処理設備、

受入れホッパー、蒸気冷却装置などで構成。滋賀県漁業協同組合連合会から委託を受け、漁業者が捕獲した外来魚のみ処理している。

捕獲した魚は県内28カ所の漁港で保存し、2トトラックでルート回収している。今後、鮮度保持のため各漁港に保冷庫の設置を提案する考えだ。搬送された外来魚は、乾燥工程などを経て約5時間で飼料化。月間5-